

科目名称(Course Title)				担当教員(Instructor)	
経済学入門				三好 ゆう	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修
授業の概要(Course Description)					
<p>経済学は200年以上も続いている学問である。経済学の巨匠達は、「すべての人々が幸せになるためにはどうしたらよいか」、「社会のしくみにより貧困に喘ぐ人々が生みだされているならば、どのように改善することで解決できるのか」を長い歴史をかけて考え続けてきた。</p> <p>経済学モデルは日々進化しているようにみえて、実はその理論の背後にある思想は新しいものではない。発展しつつも螺旋的に繰り返されてきたといえる。</p> <p>そこで本講義では、古典といわれる幾つかの名著の要点をおさえつつ、そこでの経済理論が日常生活にどのように生きているか、日常生活での現象をどのように説明することができるかを理解することを目的とする。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
本講義の最終到達目標は、経済学の基本姿勢を理解し、今後、経済学の応用分野を学ぶにあたっての基礎的知識を身につけることにある。					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	イントロダクション –経済学の扱う対象–				
第 2 回	人間と動物は違うのか				
第 3 回	社会秩序を導く人間本性とは何か				
第 4 回	どうしたら富は増えるのか				
第 5 回	価値とは何か				
第 6 回	なぜ貿易をするのか①				
第 7 回	" ②				
第 8 回	不況から脱出できるのか①				
第 9 回	" ②				
第 10 回	" ③				
第 11 回	社会現象に法則性はあるのか①				
第 12 回	" ②				
第 13 回	人間の欲望は数値化できるのか①				
第 14 回	" ②				
第 15 回	経済学はいま何を考えているか				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
① 毎講義の復習では、レジュメの他、都度示す参考書等を活用し、十分な理解をしておくこと。					
② ニュースや新聞に絶えず目を向けておくこと					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
期末試験 (100%)	秀：必要なキーワードを過不足なく用いて、説明ができる 優：キーワードを用いながら、概ね説明ができる 良：キーワードを用いながら、ある程度は理解できている 可：キーワードやしくみについて、最低限の理解ができている 不可：キーワードやしくみについて理解できていない
テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 ※特になし。授業で配布するレジюмеを中心に行う。
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	※ 毎講義のレジюмеの中で、適宜、参考文献を紹介する
備考 (Other Information)	・ 学生の理解に応じて、授業計画 (授業の進捗) が前後することがある
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	週 2 コマをオフィスアワーとする (事前連絡は不要) 具体的な曜日・時限については、オフィス前に掲示しておく